

(仮称) 仙台・青葉山エリア 文化観光交流ビジョン  
中間案 (原案)

令和4年12月  
仙台市



# 目次

## 第1章 青葉山エリア

- 1 仙台・青葉山エリア文化観光交流ビジョン策定について・・・ 2
- 2 青葉山エリアの範囲・・・ 2
- 3 青葉山エリアの歴史・・・ 4
  - 【コラム】天然記念物「青葉山」・・・ 8

## 第2章 青葉山エリアの現状等

- 1 本市各種計画等における青葉山エリアの位置付け・・・ 10
- 2 青葉山エリアの現状・・・ 14
  - 【コラム】青葉山エリアで活動している団体の声・・・ 22
- 3 青葉山エリアの特性と価値、課題・・・ 24

## 第3章 青葉山エリアの基本的方向性

- 1 青葉山エリアのコンセプト・・・ 26
- 2 目指すエリアの将来像、将来像実現に向けた取り組みの方向性・・・ 27
- 3 回遊性の向上に向けて・・・ 29

## 第4章 青葉山エリアの将来

- 1 青葉山エリアでの楽しみ方・過ごし方・・・ 32
- 2 ビジョンの実現に向けて・・・ 42



# 第1章 青葉山エリア

## 1 仙台・青葉山エリア文化観光交流ビジョン策定について

人口減少や少子高齢化が進む中、本市が持続的に発展し、選ばれるまちであり続けるためには、仙台独自の個性を磨き上げ、その魅力や価値を国内外に発信していくことが必要であり、そのための重要な要素となるのが青葉山エリアである。

この場所は、仙台のはじまりの地とも言える場であるとともに、仙台市基本計画においても「国際学術文化交流拠点」として、重要な拠点と位置付けられている。また、青葉山公園の整備や大手門復元に向けた基礎調査、音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設の整備など重要なプロジェクトが進行している。

こうした好機にあらためて、エリアの価値や魅力、回遊性の向上に向けた方向性等を示すビジョンを策定し、市民はもとより国内外に発信することにより、本市全体における交流人口の一層の拡大を図る。

なお、本ビジョンは、各種プロジェクトの一定の進捗が見込まれる概ね10年後を見据えたものとする。

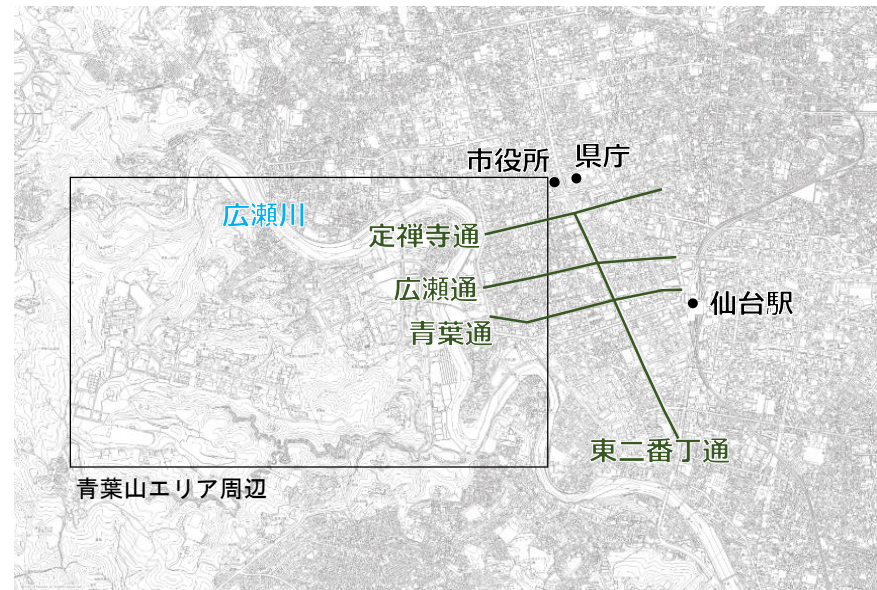
## 2 青葉山エリアの範囲

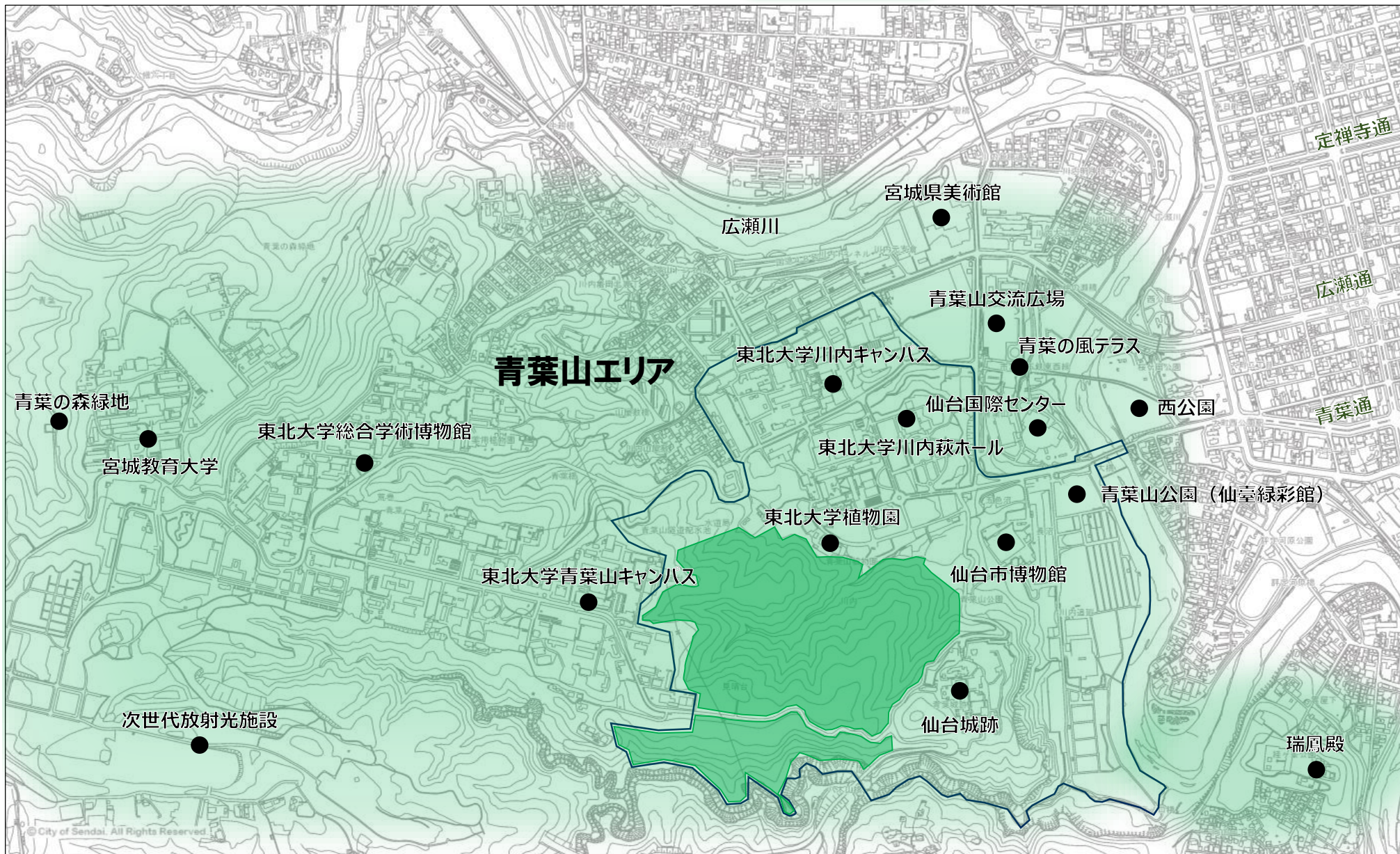
伊達政宗公が青葉山に仙台城を築いて以降、青葉山周辺は、豊かな自然や歴史が大切に守られながら、天然記念物「青葉山」の指定、「学都・仙台」や国際交流の拠点としての発展を経て、歴史、文化、学術、自然などの様々な資源に恵まれた、本市が内外に誇り得るエリアとなってきた。

仙台はじまりの場所と言える仙台城跡をはじめ、本市の魅力をもっと高める様々なプロジェクトが進む一帯を、本ビジョンの対象である「青葉山エリア」とし、エリア全体の将来像を発信していく。

### ※エリア内にある主な資源、進行中の事業

仙台城跡、東北大学川内キャンパス・青葉山キャンパス、東北大学川内萩ホール、東北大学総合学術博物館、東北大学植物園、宮城教育大学、青葉の森緑地、次世代放射光施設、宮城県美術館、仙台市博物館、青葉山公園（仙臺緑彩館）、仙台国際センター、青葉の風テラス、青葉山交流広場（音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設）、西公園、瑞鳳殿、広瀬川 等





### 3 青葉山エリアの歴史

#### (1) 青葉山エリアの起こり

青葉山は、慶長5（1600）年末に伊達政宗公が新しい居城として仙台城の縄張始めを行い、年明けから築城を開始した地であり、本丸南は竜の口溪谷、西は奥行き深い山林、東は断崖で、その前を広瀬川が流れる天然の要害であった。また、**政宗公は、仙台の末永い繁栄を願って「入そめて 国ゆたかなるみきり（砌）とや 千代とかき（限）らし せんたいのまつ（松）」と詠んでいる。仙台藩の国づくりにあたって、この地をこれまでの表記である「千代」から「仙台」に改め、千代に限らず無限の繁栄を期するという、政宗公の仙台に対する思いを伝えるものと考えられている。**

仙台城の築城が着手されるまでは、のちに城下町となる地域は、未開発地であったが、築城を機に新たな城下町建設が始まった。特に城に近い川内地区や広瀬川を挟んだ片平地区には、後に上級家臣の屋敷が配置された。

政宗公は寛永13（1636）年に没し、翌年に霊屋として仙台城の南東に位置する経ヶ峯（青葉区霊屋下）に瑞鳳殿が造営された。また、寛永15（1638）年2代目藩主伊達忠宗により二の丸の造営が開始され、藩庁としての主な機能は本丸からこちらに移されることとなった。大手門の建築時期は不明だが、遅くとも二の丸が藩庁として機能する頃には完成したと考えられている。



#### 【伊達政宗和歌詠草「入そめて」】

市指定有形文化財。「むつ」と署名されていることから、政宗公が陸奥守に任ぜられた慶長13（1608）年以降の歌とみられる。（仙台市博物館所蔵）



#### 【奥州仙台城絵図】（正保2（1645）年）

市指定有形文化財。幕府の命を受け、作製された。現在の青葉山エリアには侍屋敷のほか、本丸や二の丸・大手門なども描かれている。本丸の北西に「青葉山」の文字が見える。（仙台市博物館所蔵）

## （２）明治期から戦後の青葉山エリア

廃藩置県後の明治4（1871）年、二の丸跡に陸軍の東北鎮台が設置された。仙台鎮台への改称を経て、明治21（1888）年には陸軍第二師団へと発展し、川内地区には第二師団司令部をはじめとする多くの軍事施設が置かれた。

仙台城は明治初期に取り壊されたほか、鎮台本営が置かれた二の丸の建物も明治15（1882）年の火災でそのほとんどが消失した。軍事施設が城下に広がり、仙台が軍都と称されるようになったが、昭和20（1945）年の仙台空襲により第二師団の建物に加え、昭和6（1931）年に国宝に指定された大手門等が焼失した。敗戦によって第二師団は廃止され、川内地区の旧第二師団跡地も米軍の進駐により駐屯地として使用された。

## （３）学都の中の青葉山エリア

昭和32（1957）年、川内地区の米軍駐屯地が返還されると、その翌年に、東北大学の一部が川内地区へ移転し、昭和36（1961）年には、東北大学が片平キャンパスから青葉山へ工学部の移転整備を開始、昭和47（1972）年～48（1973）年には川内南地区へ文系学部が移転した。また、昭和43（1968）年には、宮城教育大学も現在の場所へ移転するなど、青葉山エリアは多くの学生が集う「学都・仙台」の重要な拠点となり、昭和41（1966）年にはエリア一帯の教育環境を保護するため、都市計画において特別用途地区（文教地区）に指定された。

また、昭和33（1958）年に開園した東北大学植物園の付近一帯は、江戸時代には御裏林と呼ばれ、樹木伐採が禁止されていたため植生がよく保存されており、園内には学術上貴重な動植物が多く見られ、昭和47（1972）年には同園を含む約40haが国の天然記念物に指定された。



【八木山上空より青葉山エリアを望む】

昭和40年頃に撮影（推定）

資料提供：仙台市戦災復興記念館

#### （４）青葉山エリアの発展

昭和36（1961）年には、市制70周年記念事業として、青葉山公園東丸（三の丸）跡に仙台市博物館が開館し、昭和56（1981）年には宮城県美術館が現在の地に開館するなど文化施設が集積。さらに、平成3（1991）年には仙台国際センターが開館し、こけら落としとして日米商工会議所会頭会議が開催されたことを皮切りに、本市における国際会議会場の中心となり、市民の国際交流の場としての機能も担うなど、この地が本市の国際化推進をリードするエリアとなっていく。

また、仙台城は自然地形を利用した城郭のため、城の規模に対しては石垣が比較的少ないが、本丸北壁の石垣は、最大高さ17メートル、全長179mにおよび全国でも有数の規模と曲線美を誇っている。平成9（1997）年から始まったこうした石垣の改修工事や、大広間跡の発掘調査などからその歴史的価値が高まり、平成15（2003）年には仙台城跡が国史跡に指定されている。このほか、青葉山は平成27（2015）年に、次世代に残すべき自然環境として、環境省により「生物多様性保全上重要な里地里山」に選定されるなど、エリアの発展過程においても、歴史資産や自然が守り続けられてきた。

このように、歴史や文化、学術など数多くの資源が集積しているこのエリアは、本市基本計画においても「国際学術文化交流拠点」と位置付けられ、本市の持続的な発展を支える重要な地となっている。また、都心からほど近いエリアでありながら、歴史的にも価値のある自然に恵まれたこの地は、仙台市民の心の安らぎの場であり、特別なエリアとなっている。



【仙台城本丸跡にある政宗公騎馬像】

初代の騎馬像は昭和10（1935）年に建立されたが、戦時中に金属供出のため撤去され、戦後、発見された胸像は博物館館庭等を経て、令和5（2023）年青葉山公園内に移設されている。現在の騎馬像は昭和39（1964）年に建立された2代目。



【五色沼】

日本におけるフィギュアスケート発祥の地とされ、昭和6（1931）年にはフィギュアスケートの全日本選手権も開かれている。

写真提供：（公財）仙台観光国際協会



年表：青葉山エリアの歴史

江戸時代以前			明治			昭和											平成				令和						
			4年	8年	42年	3年	20年	28年	32年	33年	36年	36年～ (1961～)	39年	42年	43年	47年	54年	56年	3年	15年	27年		31年	4年	5年		
(1600)	(1637)	(1689)	(1871)	(1875)	(1909)	(1928)	(1945)	(1953)	(1957)	(1958)	(1961)	(1961～)	(1964)	(1967)	(1968)	(1972)	(1979)	(1981)	(1991)	(2003)	(2015)		(2019)	(2022)	(2023)		
伊達政宗公が青葉山に仙台城の縄張始めを実施	政宗公の死後、経ヶ峯に霊屋として瑞鳳殿が造営	松尾芭蕉、亀岡八幡宮を参詣	二の丸跡に東北鎮台（のちの陸軍第二師団）が設置	桜ヶ岡公園（現在の西公園）が開園	観光案内書『仙台松島塩釜遊覧の栞』にて「森の都」と記載	宮城県仙台第二中学校（現在の仙台第二高等学校）が川内に移転	東北産業博覧会、川内・桜ヶ岡公園などを会場として開催	戦災により大手門・脇櫓・瑞鳳殿が焼失	青葉山公園が開園	戦後米軍が進駐した川内の駐屯地が返還	東北大学植物園が設置、東北大学の一部が川内に移転	仙台市博物館が開館（昭和61年同地に新築、現在に至る）	東北大学、青葉山キャンパスへの移転整備を開始	現在の政宗騎馬像が完成	大手門脇櫓が再建	宮城教育大学が現在の場所へ移転	青葉山が国の天然記念物に指定	瑞鳳殿が再建	宮城県美術館が開館	仙台国際センターが開館	仙台城跡が国史跡に指定	仙台国際センター展示棟、せんだい青葉山交流広場供用開始	第3回国連防災世界会議が仙台国際センターを主会場として開催	仙台市地下鉄東西線が開業	次世代放射光施設の整備に着手（令和6年度本格稼働予定）	青葉山交流広場への音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点の複合整備方針を発表	第40回全国都市緑化仙台フェアが開催（予定）、仙臺緑彩館開館（予定）

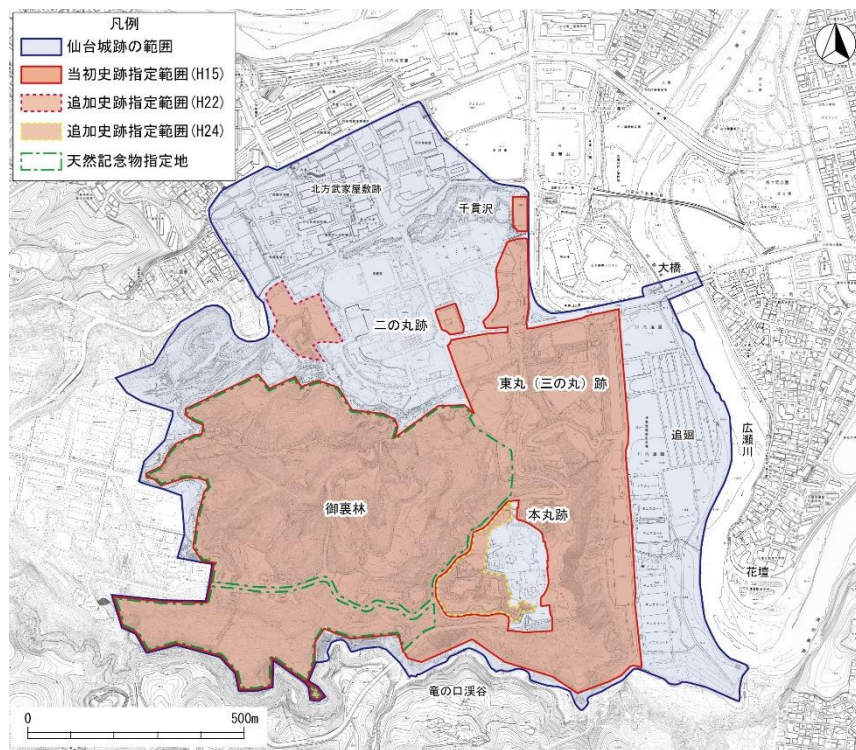
## 【コラム】天然記念物「青葉山」

本邦太平洋側の温帯林と暖帯林との接触地帯であり、面積約40万平方メートルの狭い地域の中に高等植物約700種、蘚苔類約140種が自生する。大部分は、モミを優占種とする美林で覆われ、その天然更新がよく見られる。モミは岩手県中南部にまで分布するがモミ林としては、青葉山が北限である。林床にはヒメノヤガラ、ムヨウランなどの腐生のラン科植物があり、同じく同種の北限にあたる。モミに着生するランの種類も豊富である。

また、シラカシ、アラカシ、ウラジロカシ、シロダモ、ユズリハ、タブノキ、モチノキなどの暖地性樹種に富み、太平洋側内陸部における集団分布の北限をなしている。

この森林には主なもので31科、125種の鳥類が生息または繁殖しており、竜ノ口溪谷に面する崖面にはチョウゲンボウが繁殖する。

このように自然林が、しかも大都市近郊に残存することはきわめて貴重であり学術上の価値が高い。現状、東北大学植物園として管理、公開されている。



「史跡仙台城跡整備基本計画」より

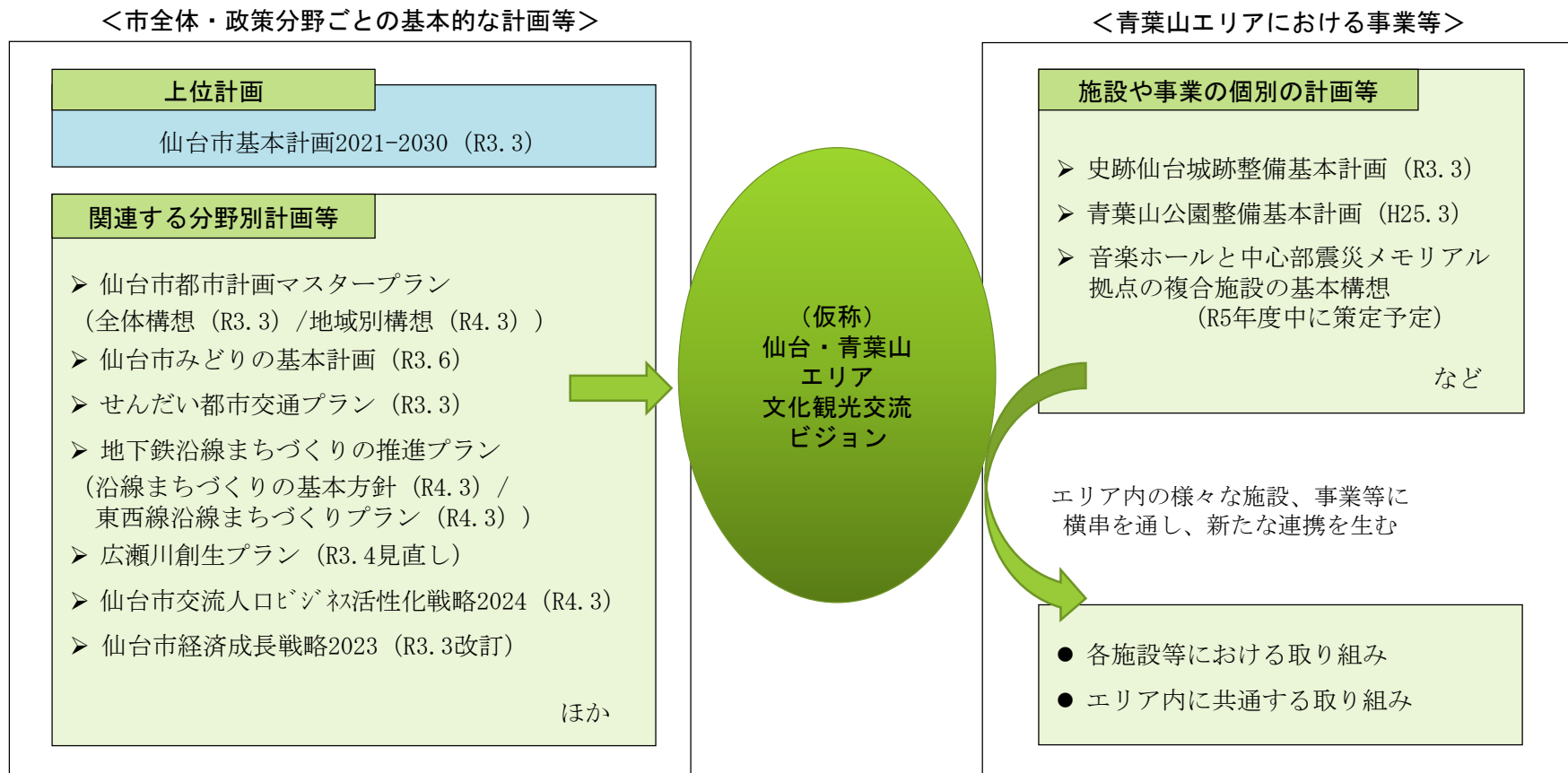
頁調整（空白）

## 第2章 青葉山エリアの現状等

### 1 本市各種計画等における青葉山エリアの位置付け

#### (1) ビジョンの位置付け、他計画等との関係

本ビジョンでは、本市基本計画をはじめ、エリアに関連する分野別計画を踏まえ、青葉山エリアに特化した方向性を示す。また、エリア内における各種事業や、様々な施設による取り組み等を踏まえ、新たな連携の創出を図る。



## (2) 市全体・政策分野ごとの基本的な計画等

### ▶ 仙台市基本計画 (令和3~12年度)

本市のまちづくりの指針。まちづくりの理念、目指す都市の姿とその実現に向けた施策の方向性を示している。

#### 【まちづくりの理念】

挑戦を続ける、新たな杜の都へ ~ “The Greenest City” SENDAI ~

#### 【4つの目指す都市の姿】(抜粋)

- 杜の恵みと共に暮らすまちへ
  - ・「杜の都」の豊かな自然と、市民の暮らしや都市機能が調和した、世界に通用する風格を備え、住みよさを実感できるまち
  - ・「仙台防災枠組2015-2030」の採択地にふさわしく、自然と人の力を活かした災害対応力に備え、国内外の防災力の向上に貢献できるまち
- 多様性が社会を動かす共生のまちへ
- 学びと実践の機会があふれるまちへ
- 創造性と可能性が開くまちへ
  - ・東北と世界を結びつけるハブとしての機能を持つ都市として、グローバルな経済活動や、だれもが楽しめる多彩な交流が生まれるまち

#### 【8つのチャレンジプロジェクト】

(抜粋)

目指す都市の実現に向け、重点的に取り組むプロジェクト。施策の方向性を示している。

- 1 杜と水の都プロジェクト
  - ・「杜の都」の象徴となる都心空間をつくる
  - ・みどりを楽しめる生活空間をつくる
  - ・水辺を楽しめる親水空間をつくる
- 6 ライフデザインプロジェクト
  - ・まちの至る所で学びと実践の機会がある環境をつくる
- 7 TOHOKU未来プロジェクト
  - ・仙台・東北の産業の成長を支える
  - ・仙台・東北に世界中から人を呼び込む
- 8 都心創生プロジェクト
  - ・イノベーションが生まれる都心をつくる
  - ・まちの回遊性を向上する

#### 実現に向けての施策

##### 国際学術文化交流拠点

青葉山周辺においては、次世代放射光施設の整備推進や産学官金連携による研究開発拠点の集積を図るなど、国際的な学術文化・交流機能の充実を図る。青葉山公園において、「杜の都」の歴史や文化、自然環境を発信する拠点の整備を推進するとともに、コンベンション機能やミュージアム機能の強化に取り組み、広域的な交流機能の充実を図る。

### ▶ 仙台市都市計画マスタープラン

~都市計画に関する基本的な方針2021-2030~ (令和3~12年度)

本市の都市計画に関する基本的な方針。都市づくりの目標像とその実現に向けた基本方針を示している。

#### 【都市づくりの目標像】

選ばれる都市へ挑戦し続ける“新たな杜の都”  
~自然環境と都市機能が調和した多様な活動を支え・生み出す持続可能な都市づくり~

#### 【選ばれる都市の実現に向けて】

- 「働く場所」として選ばれる都市
- 「学ぶ・楽しむ場所」として選ばれる都市
- 「暮らす場所」として選ばれる都市



#### 【都市づくりの基本方針】(抜粋)

- 1 魅力・活力ある都心の再構築
- 2 都市機能の集約と地域の特色を生かしたまちづくり

#### 方針2-2 各拠点の機能強化

青葉山周辺の国際学術文化交流拠点においては、次世代放射光施設の整備の推進や、産学官金連携による研究開発拠点の集積を図るなど、当該施設を核として国際的な学術文化・交流機能の充実等を図る。

- 3 質の高い公共交通を中心とした交通体系の充実
- 4 杜の都の継承と安全・安心な都心環境の充実
- 5 魅力を生み出す協働まちづくりの推進

### ▶ 地下鉄沿線まちづくりの推進プラン (令和4~12年度)

都市計画マスタープランを上位計画とし、機能集約型の都市づくりを着実に推進するための都市軸におけるまちづくりの推進計画。地下鉄沿線まちづくりの方向性とその実現に向けた施策を示す。

#### 【沿線まちづくりの方針】(抜粋)

- 「賑わいが生み出される活力あるまち」の創造
- 「多種多様な資源を体験できる魅力的で楽しいまち」の創造

### ▶ 仙台市みどりの基本計画（令和3～12年度）

本市の緑の都市像や施策について定めた総合的な計画。

伝統ある「杜の都」の風土を生かし、市民協働で取組んできた「百年の杜づくり」を継承し、みどりで選ばれる新たな杜の都の実現を目的とする。

#### 【基本理念】

百年の杜づくりで実現する新たな杜の都～みどりを育むひと、みどりが育むまち～

#### 【基本方針】（抜粋）

- みどりで選ばれるまち  
→ 都心部の活力・にぎわいの創出  
(青葉山公園整備事業、西公園再整備事業)
- みどりを誇りとするまち  
→ 都心部の「みどりの回廊づくり」  
→ 仙台ならではのみどりの活用  
(仙台北城跡整備事業)

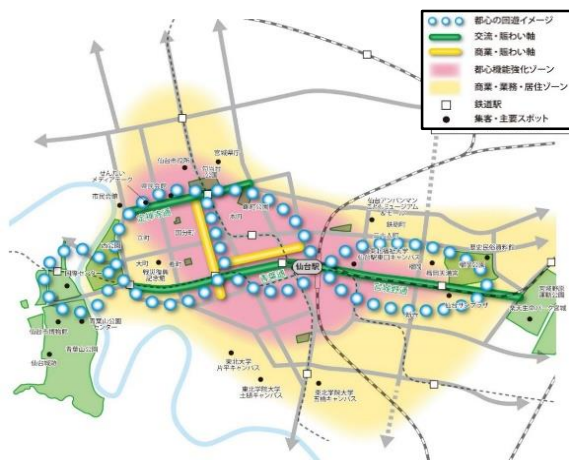


### ▶ せんだい都市交通プラン（令和3～12年度）

本市の交通の将来目標や基本方針、目指す将来の交通体系等を示す、本市における交通政策の指針。

#### 【基本方針】（抜粋）

- 1 質の高い公共交通を中心とした都市交通の充実
- 2 賑わい創出に向けた都市交通環境の再構築  
→ 居心地が良く歩きたくなる歩行者空間の創出  
→ 公共交通や自転車を利用した快適な移動環境の整備 ほか
- 3 多様な都市活動を支える交通政策の推進



### ▶ 広瀬川創生プラン（平成27～令和6年度）

広瀬川の豊かな自然環境の保全や安全安心な川づくり、新たな魅力の創出を図ることを目的とする。

#### 【基本理念】（抜粋）

広瀬川と共生する暮らしの発見と創出

#### 【基本目標】（抜粋）

- 治水・利水・親水の推進  
→ 水辺空間を楽しめる取組み

### ▶ 仙台市交流人口ビジネス活性化戦略2024（令和4～6年度）

人口減少が進行する中、コロナ禍を経て激化する都市間競争を見据えながら、本市の地域経済を持続的に発展させるために、交流人口の早期回復とさらなる拡大、交流人口ビジネスの活性化を図ることを目的とする。

#### 【重点プロジェクト】（抜粋）

- エリア別ブランディングプロジェクト
  - ・ 地域の特徴を活かしたブランディング  
《青葉山エリアブランディング》  
歴史的な重みがある地域であると同時に、「国際学術文化交流拠点」である青葉山エリアの魅力を高め広く発信
- インバウンド& MICE強化プロジェクト
  - ・ MICE誘致の強化  
G7関係閣僚会合等の政府系国際会議や経済効果の高い大規模コンベンション誘致を強化するとともに、企業系会議等の誘致を進める。また、ユニークベニューの開発やMICE参加者の回遊促進、事業者との連携によるMICE受入体制の強化を図る。

### ▶ 仙台市経済成長戦略2023（令和元～5年度）

仙台・東北で暮らす人々が、経済的な豊かさを得られるのはもちろんのこと、社会的課題の解決が進むことによる生活の質の向上や、精神的な豊かさなどを実感できる未来を目指す。

#### 【重点プロジェクト】（抜粋）

- 次世代放射光施設立地を最大限に生かす「光イノベーション都市・仙台」
  - ・ 次世代放射光施設の立地を、仙台・東北の産業におけるイノベーションや付加価値の創出などにつなげ、地域経済への波及効果を最大限生み出す「光イノベーション都市」実現を目指す。

### (3) 青葉山エリアにおける事業等

#### ➤ 史跡仙台北城跡整備基本計画 (令和3～20年度)

国指定史跡仙台北城跡の整備基本計画。仙台北城跡の本質的価値を顕在化し、理想とする仙台北城跡の姿を実現するため、整備の具体的な方針や方法を明示することを目的とする。

#### 【コンセプト】

「仙台」発祥の地 仙台北城跡を  
より城郭らしく 地域の誇りと愛着を育む場へ  
～新たな杜の都にふさわしい歴史的眺望 “政宗ビュー” の実現～

#### 【基本理念】(抜粋)

- 仙台の象徴として守り伝える歴史・文化的遺産
  - ・ 仙台の象徴であり歴史の原点である仙台北城跡を市民の誇りとして次世代へと確実に継承する
- 安全・快適に史跡に親しみ学べる地域の城
  - ・ 様々な来訪者が城内を回遊しながら史跡に親しみ、その歴史や価値を学ぶことができる整備を行う
- 仙台のまちづくりと地域の活性化へつなぐ観光資源
  - ・ 地域活性化に資する観光資源として魅力ある整備を行い、多くの来訪を促す。

#### 【基本方針】

- 1 継続的な調査研究と維持管理による、遺構・遺物の保存と次世代への継承
- 2 城郭らしい景観の顕在化および眺望の確保
- 3 安全・安心・快適な城内環境の実現
- 4 来訪者の回遊性向上
- 5 様々な来訪者への適切な対応
- 6 史跡情報の積極的公開・活用・広報
- 7 市民協働・地域との連携推進



#### ➤ 青葉山公園整備基本計画 (平成9～令和8年度 ※平成25年3月見直し)

仙台の礎である仙台北城跡を含む青葉山と広瀬川に囲まれた区域について、藩政時代からの歴史的・文化的資源や優れた自然景観を生かしながら、市民や仙台を訪れた人が親しむことのできる杜の都のシンボルとなる公園として整備。

#### 【計画テーマ(将来像)】

仙台の誇りを育み、心に染み入る歴史と自然の景域づくり

「百年の杜づくり」のシンボルとして、自然、歴史、文化等の仙台を代表する資源を多様な主体により、ソフト、ハード両面から機能発揮を図り、仙台発祥の地としての誇りと心を守り、育て、未来に伝える取組を目標とする。

#### 【基本方針】(抜粋)

- 1 広域的な視点による計画
  - ・ 周辺地区の緑や施設と連携した公園づくり
- 2 百年の杜づくりのシンボルとなる歴史的資源・自然資源の保全と活用
- 3 地域資源を活かした市民活力の場の創出
  - ・ 優れた地域資源を活用した魅力ある空間をベースとした活動の場づくり
  - ・ すべての市民に愛され、地域の遺伝子を継承する公園づくり
- 4 杜の都仙台を代表する品格ある公園づくり
  - ・ 藩政時代から継承されてきた地域の資源を活かした仙台北城跡の創造
- 5 地域の特色ある景域と景観軸の活用



いこい・にぎわいゾーン

## 2 青葉山エリアの現状

(1) 主な施設・進行中の事業 東西約3kmの範囲に多様な施設が集積しているほか、新たな事業も進行しており、更なる魅力や価値の向上が期待される。

### ①宮城県美術館



- ・昭和56(1981)年開館
- ・近現代美術、東北地方にゆかりのある作品、佐藤忠良記念館などが特色
- ・展示のほか公開講座などの教育普及事業、ギャラリーの運営なども実施
- ・リニューアルのため令和5(2023)年度途中から令和7(2025)年度途中まで休館予定

【実績】

年度	観覧者数
H30	137,837人
R1	108,719人
R2	182,877人

### ②仙台国際センター



- ・平成3(1991)年開館、平成27(2015)年には展示棟が完成
- ・6,000人規模の大規模催事が開催可能で、各種学術集会や平成27(2015)年には国連防災世界会議が開催されるなど仙台的国際交流・産業学術文化振興の拠点

【実績】

年度	催事件数	利用者数
H30	592	325,525人
R1	539	286,996人
R2	161	51,608人

### ⑩青葉の森緑地



- ・豊かな自然を満喫できる里山で、変化に富む散策路を整備
- ・自然観察会やトレッキングなどのイベントも開催

### ⑤東北大学総合学術博物館



- ・平成10(1998)年発足
- ・化石や鉱物、考古資料など貴重な標本を多数保管、展示

### ⑧東北大学川内萩ホール



- ・大学創立100周年記念として平成19(2007)年リニューアル
- ・最先端の音響学の知見に基づき豊かな音空間を実現

### ⑥東北大学植物園



- ・昭和33(1958)年設立
- ・藩政期は御裏林とされ、昭和47(1972)年には国の天然記念物に指定

### ⑦瑞鳳殿



- ・伊達政宗公の霊廟
- ・戦災により焼失するも、昭和54(1979)年再建
- ・再建に先立つ調査で遺骨、武具、文具類等多くの副葬品が出土

### ④仙台城跡



- ・慶長5(1600)年に伊達政宗公が縄張り始めを行う。仙台城は明治初期に解体
- ・博物館のある東丸(三の丸)跡を含めて国の史跡に指定、御裏林である青葉山は国の天然記念物に指定
- ・瑞鳳殿等とともに日本遺産「政宗が育んだ“伊達”な文化」を構成
- ・伊達政宗公騎馬像、仙台城見聞館、青葉城資料展示館がある。眺望が豊かなことから、観光客はもとより市民も多く訪れている

### ③仙台市博物館



- ・昭和36(1961)年仙台城東丸(三の丸)跡に開館
- ・国宝でユネスコ記憶遺産に登録された「支倉常長像」や伊達家寄贈文化財など約10万点を収蔵
- ・館庭には支倉常長や魯迅の碑などが設置
- ・令和6(2024)年3月まで大規模改修のため休館中(予定)

【実績】

年度	利用者数
H30	153,577人
R1	111,482人
R2	21,679人

### ⑨青葉の風テラス



- ・国際センター駅上部の多目的スペースや屋外テラスからなる施設。イベント等に活用されにぎわいを創出





### ⑪ 史跡仙台城跡整備



(出典：史跡仙台城跡整備基本計画)

- ・平成17年に策定した仙台城跡整備基本計画の内容を見直し、令和3～20年度までの計画を策定、史跡仙台城跡の整備と保存・活用を進めている
- ・事業計画期間（令和3～12年度）においては、調査、修景、登城路整備を3本柱として整備事業を行う。修景により歴史的景観と青葉山の自然環境が調和した眺望“政宗ビュー”の実現を目指す。また、大手門復元に向けた基礎調査等を進める
- ・史跡仙台城跡を、より城郭らしく地域の誇りと愛着を育む場となるよう整備を進める

### ⑫ 青葉山公園整備 ～仙臺緑彩館オープン～



「もりの市民広場」イメージ

(建設局資料より)

- ・藩政時代からの歴史的・文化的資源や優れた自然景観を生かしながら、市民や仙台を訪れた人が親しむことのできる「杜の都のシンボル」となる公園を目指して整備
- ・国史跡指定地区、追廻地区、国際センター地区で構成
- ・エリアの玄関口となる「仙臺緑彩館」が令和5年4月26日開館予定。多くの方が憩い、集うことができる施設となるよう、七夕飾りや青葉まつりの山鉾などを常設展示するなど、観光交流拠点としての機能も備える施設となるよう整備中

### ⑬ 次世代放射光施設 「ナノテラス」 ～光イノベーション都市を目指して～



(写真提供：(一財)光科学イノベーションセンター)

- ・令和6年度本格稼働予定
- ・産業利用に大きく道を開き、情報通信や先端材料に加え、医療や環境エネルギー、食品などの分野でも活用が期待される
- ・地域経済への波及効果を高めるために、本市において先行施設等でトライアルユースを実施。地域企業に対する普及啓発に取り組んでいる
- ・関係機関と連携し、施設周辺での「リサーチコンプレックス」の形成を目指し、施設利活用が見込まれる企業などに対し、活用方法や本市の立地環境をPRするなど、誘致活動を行っている

### ⑭ 音楽ホール・中心部 震災メモリアル拠点 複合施設整備



(写真提供：仙台国際音楽コンクール)

- ・文化芸術の創造と発信の新たな拠点となる音楽ホールと、防災環境都市・仙台の「災害文化」の創造を担う中心部震災メモリアル拠点の複合施設を、青葉山交流広場へ整備予定
- ・令和4年度、複合施設の整備基本構想の策定に着手
- ・基本構想策定後、令和5年度中に基本計画の策定に着手予定
- ・施設の整備により、周辺施設との連携のもと、新たな文化観光交流ゾーンの形成や広域からの集客、都心部も含めたまちの活性化が期待される

### ⑮ 第40回全国都市緑化仙台 フェア開催 R5.4.26～6.18



青葉山公園追廻地区イメージ



西公園南側地区イメージ

- ・昭和58年より毎年開催されている国内最大級の花と緑の祭典。本市では平成元年以来の開催
- ・青葉山公園追廻地区、西公園南側地区、広瀬川地区（公園2地区の周辺）をメイン会場とするほか、まちなかエリア会場、東部エリア会場等を設定。100万人の入場者を目標とする
- ・会場整備をはじめ、観光客誘致に向けた施策やイベントの検討など、開催に向けて準備を進めている

(出典：第40回全国都市緑化仙台フェア基本計画)

### 仙台市×東北大学 スーパーシティ構想



仙台市×東北大学 スーパーシティ構想  
～キャンパスから未来都市が広がる～

- ・大胆な規制改革を行うとともに、先進的なサービスの提供と複数分野のデータ連携を前提とした、先進的スマートシティ化を目指す取組
- ・東北大学・青葉山キャンパスをはじめとする特定エリアから拡大し、市内全域を対象に横展開を図る。令和4年度は、大学と協議会参画事業者との連携のもと、構想実現に向け、データ連携基盤を活用しながらモデル実証を行うこととしている

To be SMART City SENDAI

(まちづくり政策局資料より)

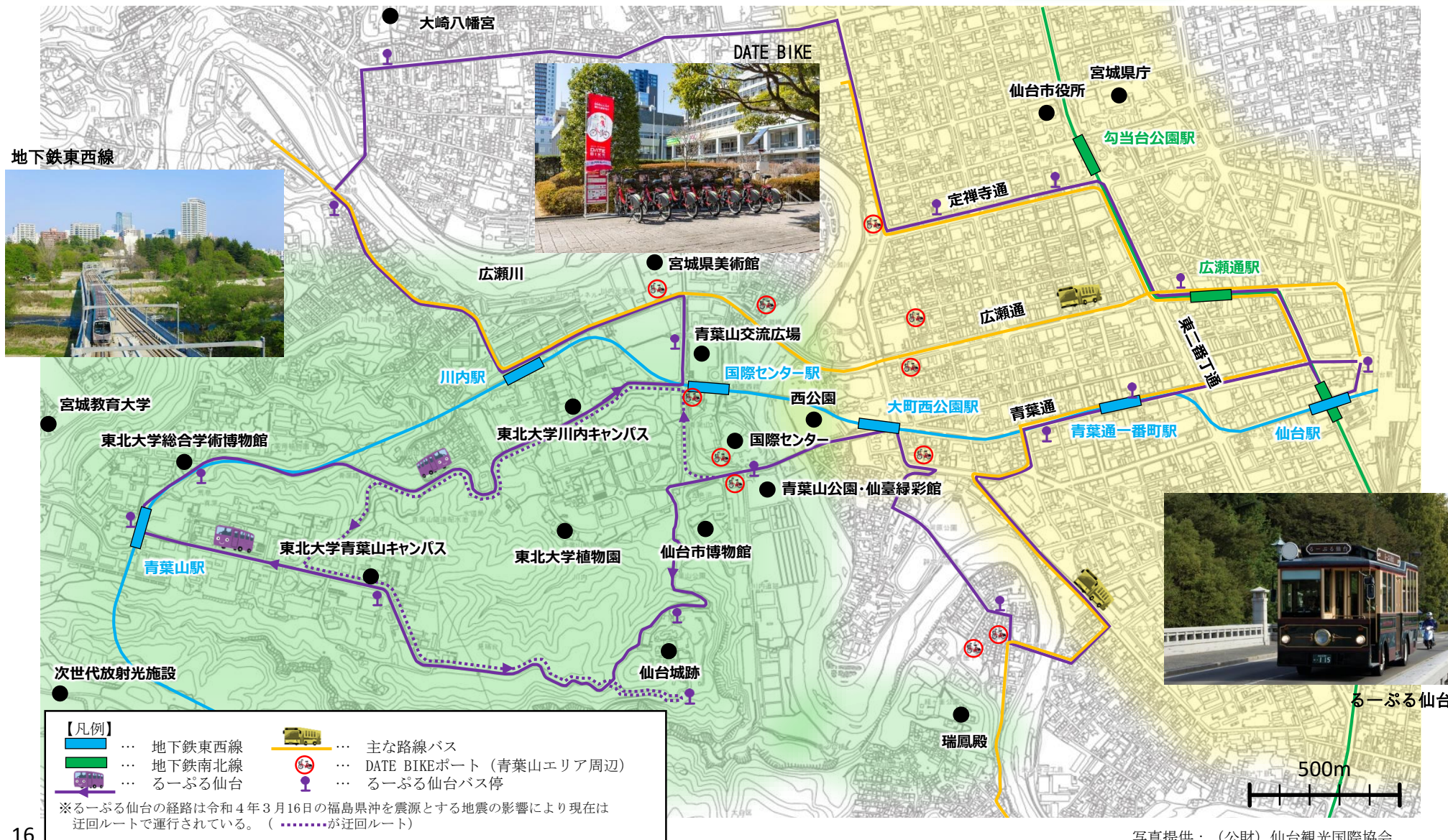
## (2) エリアへのアクセス

エリアは、地下鉄沿線であるほか、観光シティーブスの主要経路にもなっている。

交通手段	頻度	仙台駅からの時間	交通手段	頻度	仙台駅からの時間
地下鉄東西線	5～18分間隔	5分 (国際センター駅まで)	るーぶる仙台	20～30分間隔	18分程度 (博物館まで)
路線バス (川内方面)	1時間に2本程度	14分程度 (川内駅まで)	自転車	—	10分程度 (博物館まで)
路線バス (瑞鳳殿方面)	1時間に5～6本程度	11分程度 (瑞鳳殿まで)	徒歩	—	30分程度 (博物館まで)

青葉山エリア

都心



### (3) エリアに関するデータ

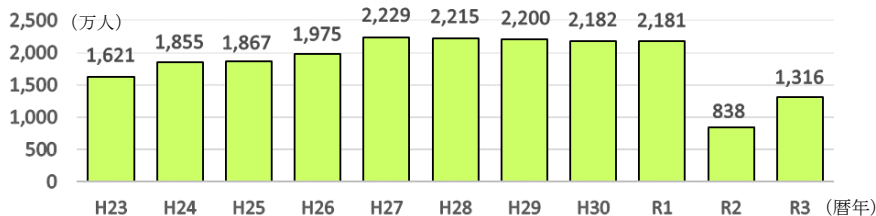
青葉山エリアは、本市の主要観光地であるとともに、国際会議開催拠点となっている。

#### (ア) 観光客入込数について

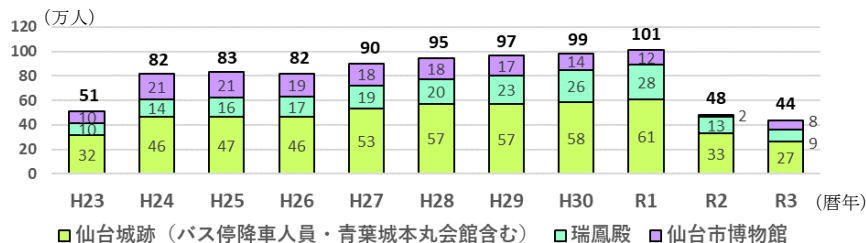
- 本市全体の観光客入込数は、平成23年以降増加傾向をたどり、平成27年に過去最高の2,229万人を記録。令和元年まで横ばいで推移していたものの、令和2年は新型コロナウイルス感染症の影響により激減
- 「仙台城跡・瑞鳳殿・博物館」の観光客入込数は、新型コロナウイルス感染症以前の令和元年是約101万人を記録している

「観光客入込数」について  
観光庁の「観光入込客統計に関する共通基準」に基づき、市内の観光施設、温泉施設、観光イベント等の入込客数を調査集計

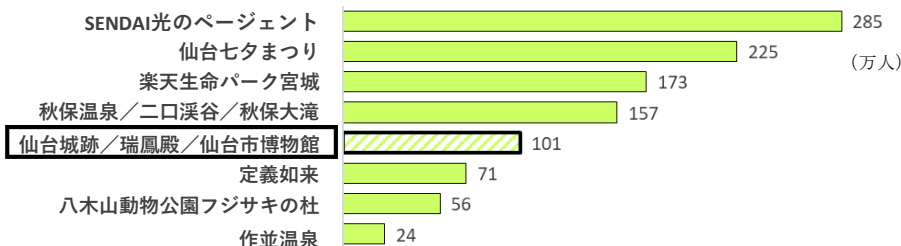
##### ① 仙台市全体の観光客入込数の推移



##### ② 仙台城跡・瑞鳳殿・博物館の観光客入込数の推移



##### ③ 主な観光地点・行催事・イベントにおける観光客入込数 (令和元年)



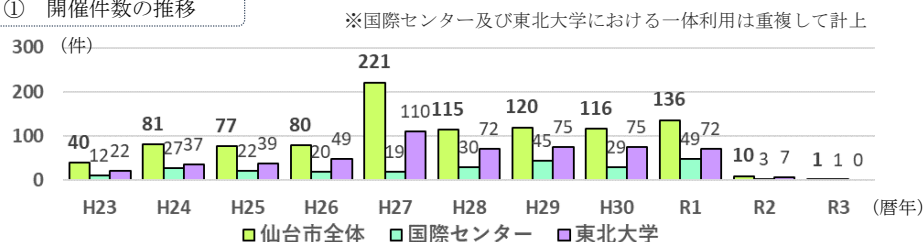
①「仙台市観光統計基礎データ」より  
②③「Data仙台2021」より

#### (イ) 国際会議開催状況について

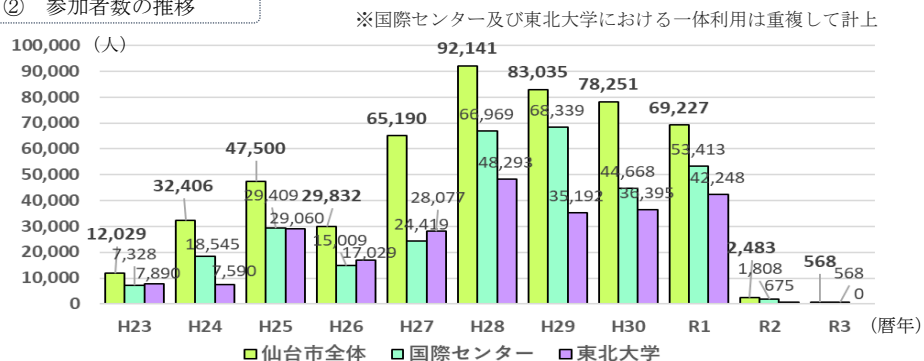
- 本市全体の国際会議開催件数は、平成27年に国連防災世界会議の開催や地下鉄東西線の開業により急増し、過去最高の221件を記録。平成28年以降は120件前後で推移したものの、令和2年は新型コロナウイルス感染症の影響により激減
- 会場は「国際センター」及び「東北大学」が開催件数及び参加者数の大半を占めている

「国際会議」の基準について (JNTO国際会議統計)  
主催者：「国際機関・国際団体 (各国支部を含む)」又は「国家機関・国内団体」  
(「公共色を帯びていない民間企業」以外は全て。)  
参加者総数：50名以上  
参加国数：日本を含む3居住国・地域以上  
開催期間：1日以上

##### ① 開催件数の推移



##### ② 参加者数の推移



①②日本政府観光局 (JNTO) 国際会議統計より

##### ③ コンベンション開催実績

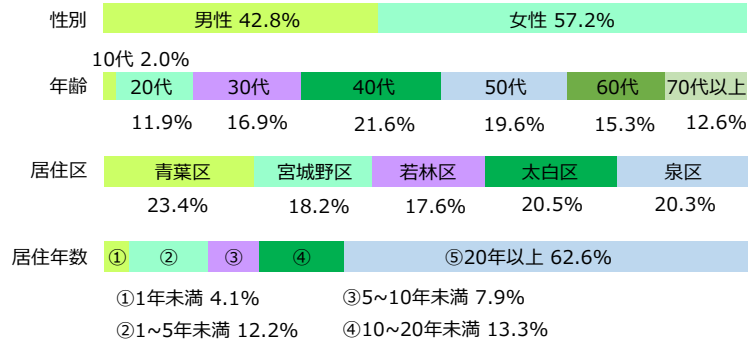
■ 主な政府系国際会議		■ 主な学術集会	
H27	第3回国連防災世界会議 (6,500名)	H28	第80回日本循環器学会学術集会 (15,000名)
H28	G7仙台財務大臣・中央銀行総裁会議 (800名)	R1	第62回日本糖尿病学会年次学術集会 (12,000名)
H29	世界防災フォーラム／防災ダボス会議 @仙台2017 (947名)	R2	第31回日本老年学会総会 (9,500名)
R1	第31回OIEアジア・極東・太平洋地域総会 (110名)	R2	第17回世界地震工学会議 (現地271人、オンライン2,852名)

③ (公益) 仙台観光国際協会ホームページ等より

## (4) エリアに関するアンケート調査

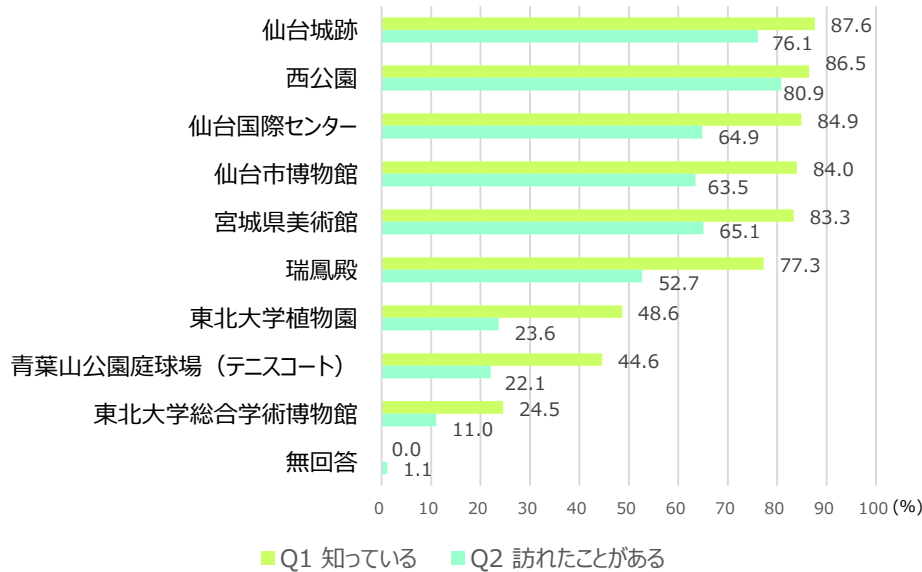
### (ア) 青葉山エリアに関する市民アンケート（令和4年5月～6月 仙台市実施）

#### (1) 回答者プロフィール（N=444）



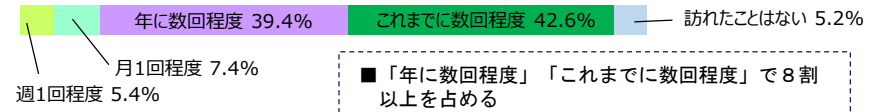
#### (2) 青葉山エリアに関する質問

Q1 「青葉山エリア」内で知っている施設等をすべて選択してください（N=444）  
 Q2 「青葉山エリア」内で訪れたことがある施設等をすべて選択してください（N=444）



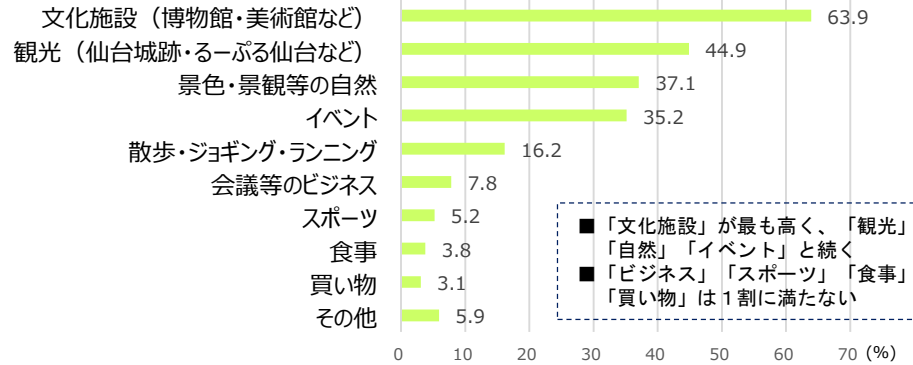
■ 認知度、来訪経験のいずれも「仙台城跡」「西公園」が上位を占めている

#### Q3 「青葉山エリア」をどのくらいの頻度で訪れますか（N=444）



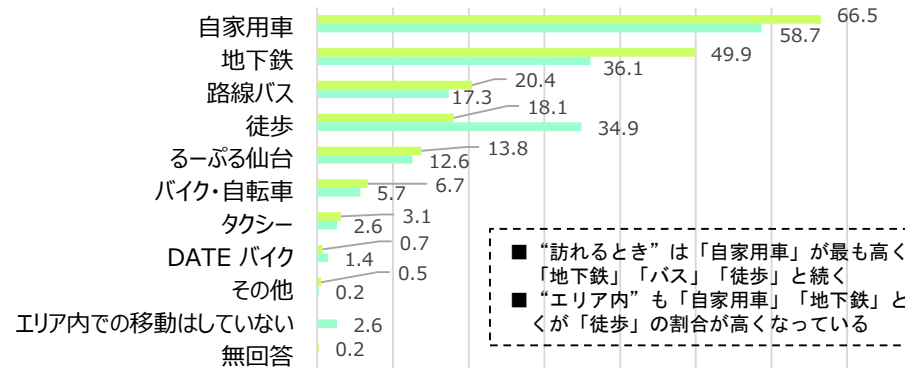
■ 「年に数回程度」「これまでに数回程度」で8割以上を占める

#### Q4 「青葉山エリア」を訪れた目的を選択してください（頻度の高いものから3つまで）（N=421、Q3での「訪れたことはない」を除く）



■ 「文化施設」が最も高く、「観光」「自然」「イベント」と続く  
 ■ 「ビジネス」「スポーツ」「食事」「買い物」は1割に満たない

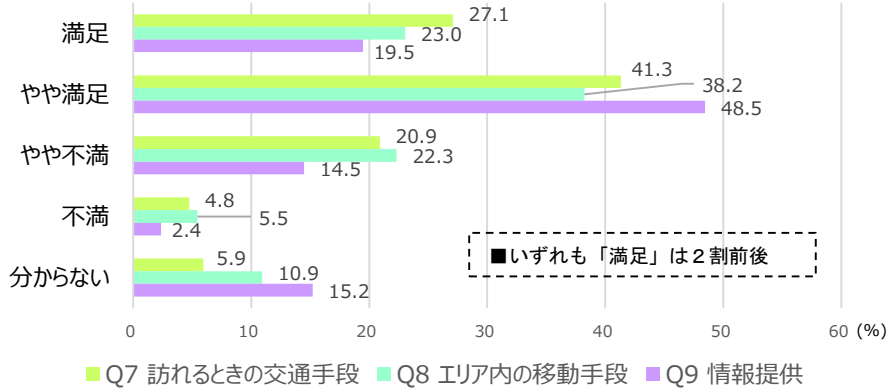
#### Q5 「青葉山エリア」を訪れるときの主な交通手段を選択してください（頻度の高いものから3つまで） Q6 「青葉山エリア」内の主な移動手段を選択してください（頻度の高いものから3つまで） （いずれもN=421、Q3での「訪れたことはない」を除く）



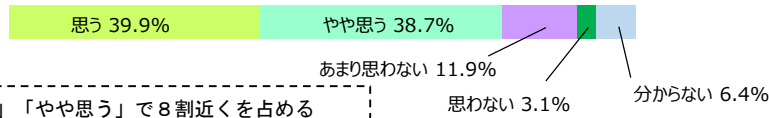
■ 「訪れるとき」は「自家用車」が最も高く、「地下鉄」「バス」「徒歩」と続く  
 ■ 「エリア内」も「自家用車」「地下鉄」と続くが「徒歩」の割合が高くなっている

■ Q5 訪れるときの交通手段 ■ Q6 エリア内の移動手段

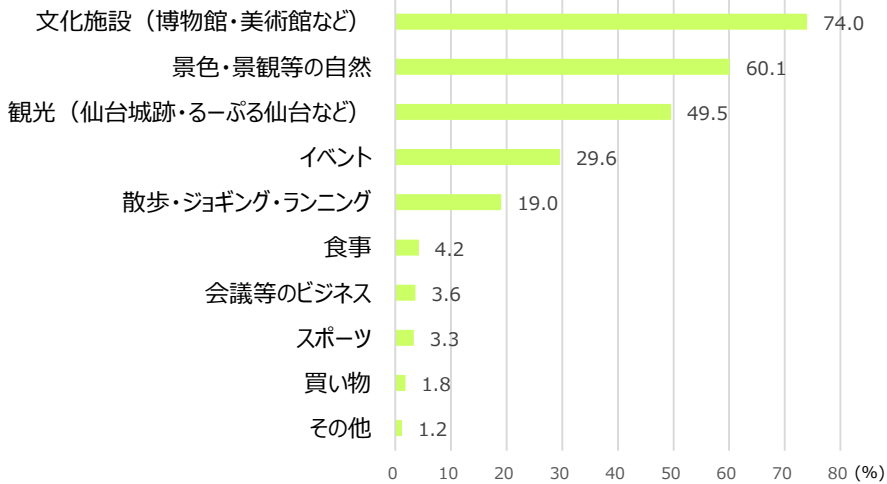
Q7 「青葉山エリア」を訪れるための交通手段に関する満足度についてお伺いします  
 Q8 「青葉山エリア」内の移動手段に関する満足度についてお伺いします  
 Q9 「青葉山エリア」の情報提供（訪れるきっかけ）に関する満足度についてお伺いします  
 （いずれもN = 421、Q3での「訪れたことはない」を除く）



Q10 「青葉山エリア」をまた訪れたいと思いますか（N = 421、Q3での「訪れたことはない」を除く）

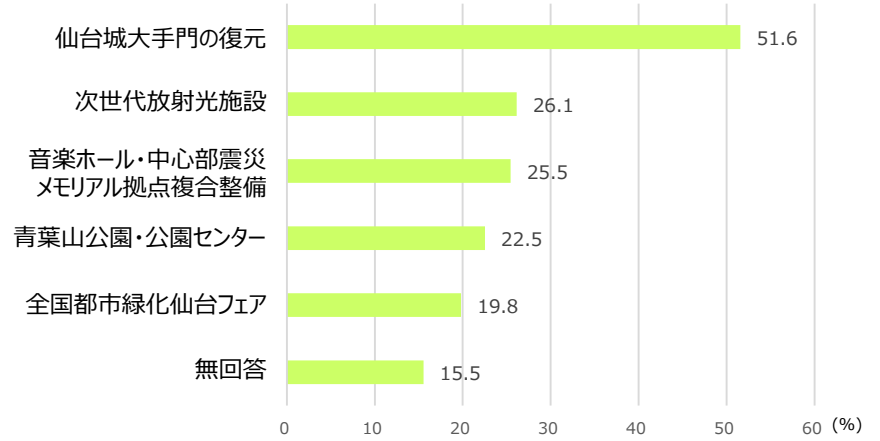


Q11 「青葉山エリア」をまた訪れたいと思う目的を選択してください（3つまで選択）  
 （N = 331、Q9で「思う」「やや思う」を選択した方）



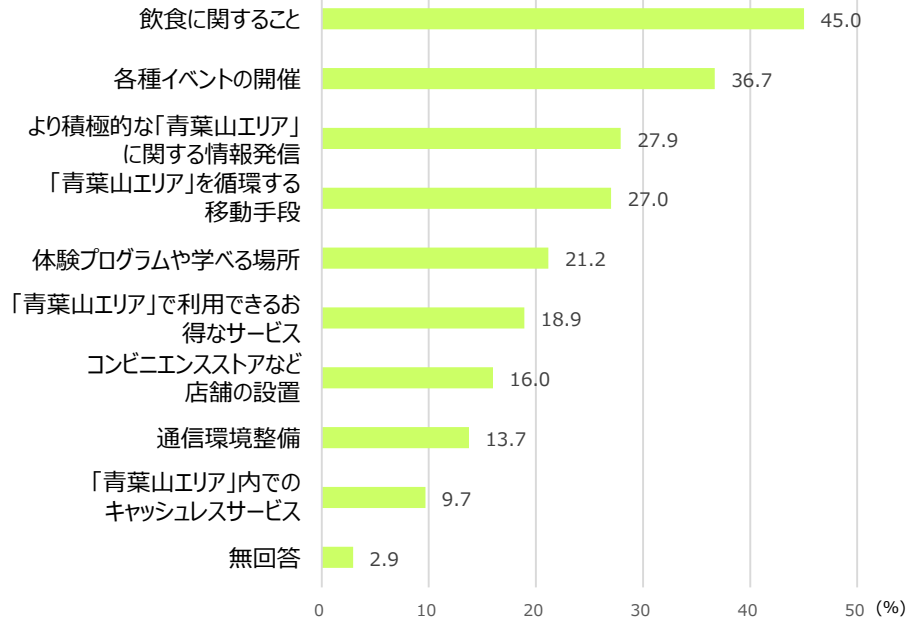
■ 「文化施設」が最も高く、「自然」「観光」「イベント」と続く

Q12 「青葉山エリア」に関する今後の予定で知っていることをすべて選択してください（N = 444）



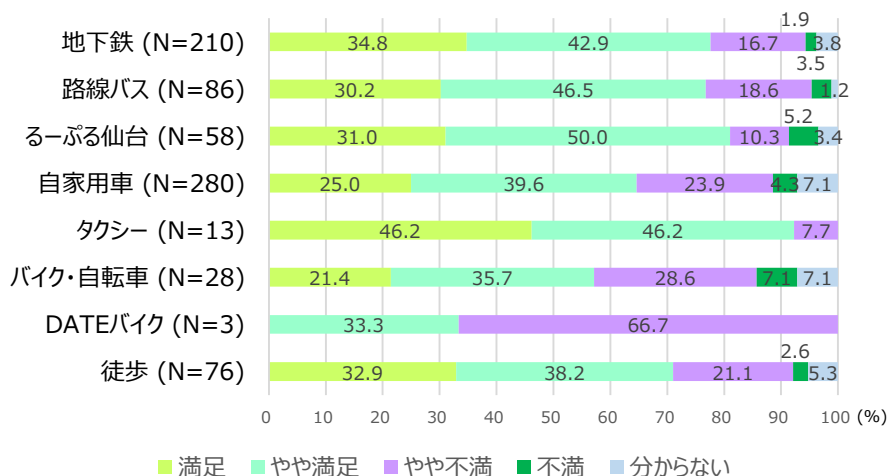
■ 「大手門復元」の認知度が最も高く、「次世代放射光施設」「複合整備」と続く

Q13 「青葉山エリア」に期待すること（もの）を選択してください（期待度の高いものから3つまで）  
 （N = 444）



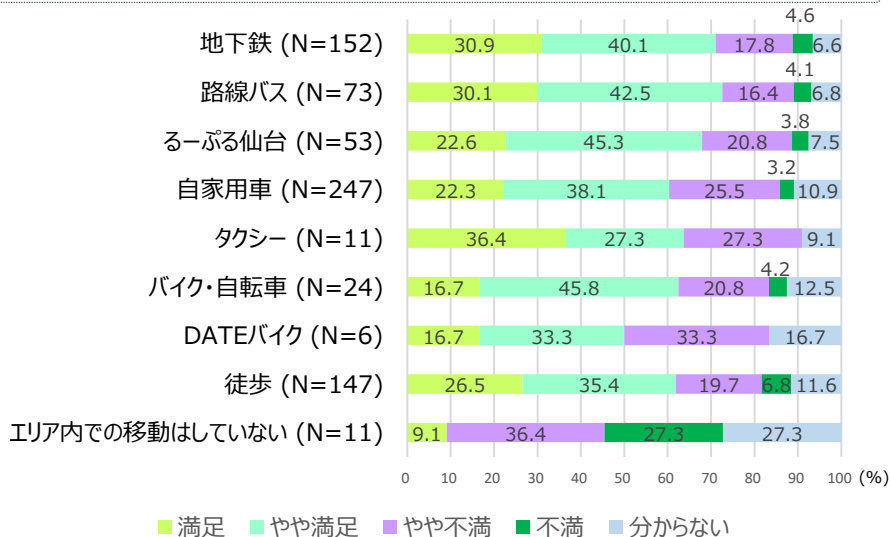
■ 「飲食」が最も高く、「イベント」「情報発信」と続く

Q5×Q7 「青葉山エリア」を訪れるための交通手段別の、訪れる交通手段に関する満足度



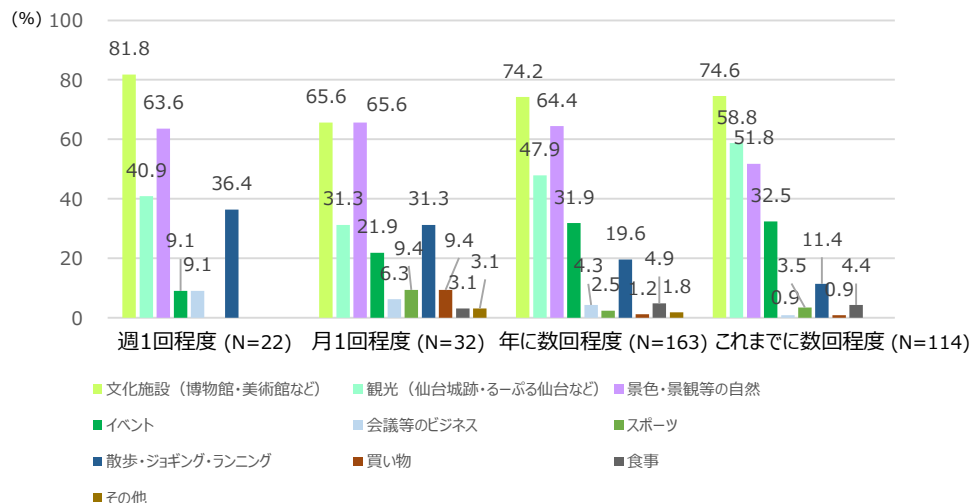
■ エリアを訪れるための交通手段として「自家用車」「バイク・自転車」「DATEバイク」を選択した人は、「満足」「やや満足」の割合が比較的低い

Q6×Q8 「青葉山エリア」内の交通手段別の、エリア内の交通手段に関する満足度



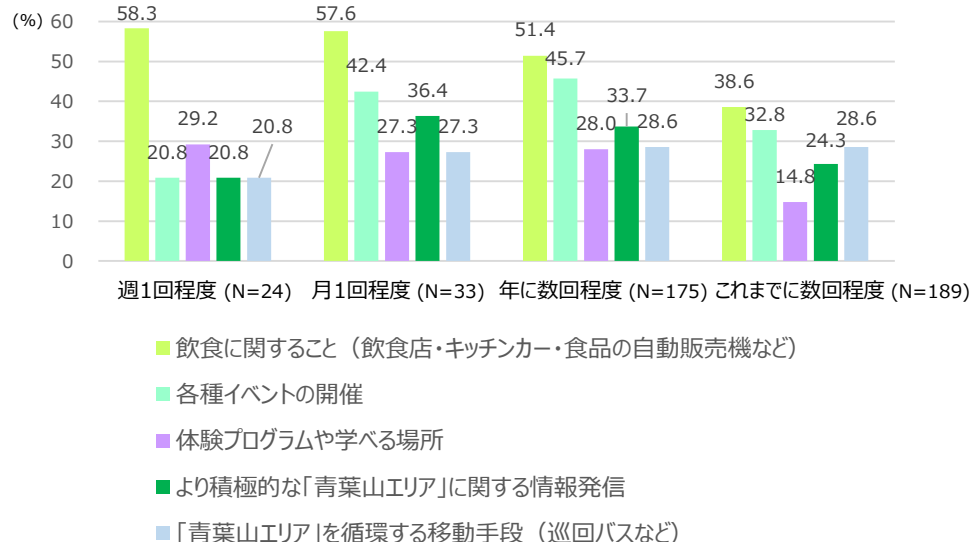
■ エリア内の交通手段として「るーぶる仙台」「自家用車」「バイク・自転車」「DATEバイク」を選択した人は、「満足」の割合が比較的低い

Q3×Q11 「青葉山エリア」を訪れる頻度別の、「青葉山エリア」をまた訪れたいと思う目的



■ いずれも「文化施設」が最も高い  
■ 週1回程度訪れる人は、「散歩・ジョギング・ランニング」の割合が比較的高い

Q3×Q13 「青葉山エリア」を訪れる頻度別の、「青葉山エリア」に期待すること (もの) (割合が高いもの5項目を抜粋)

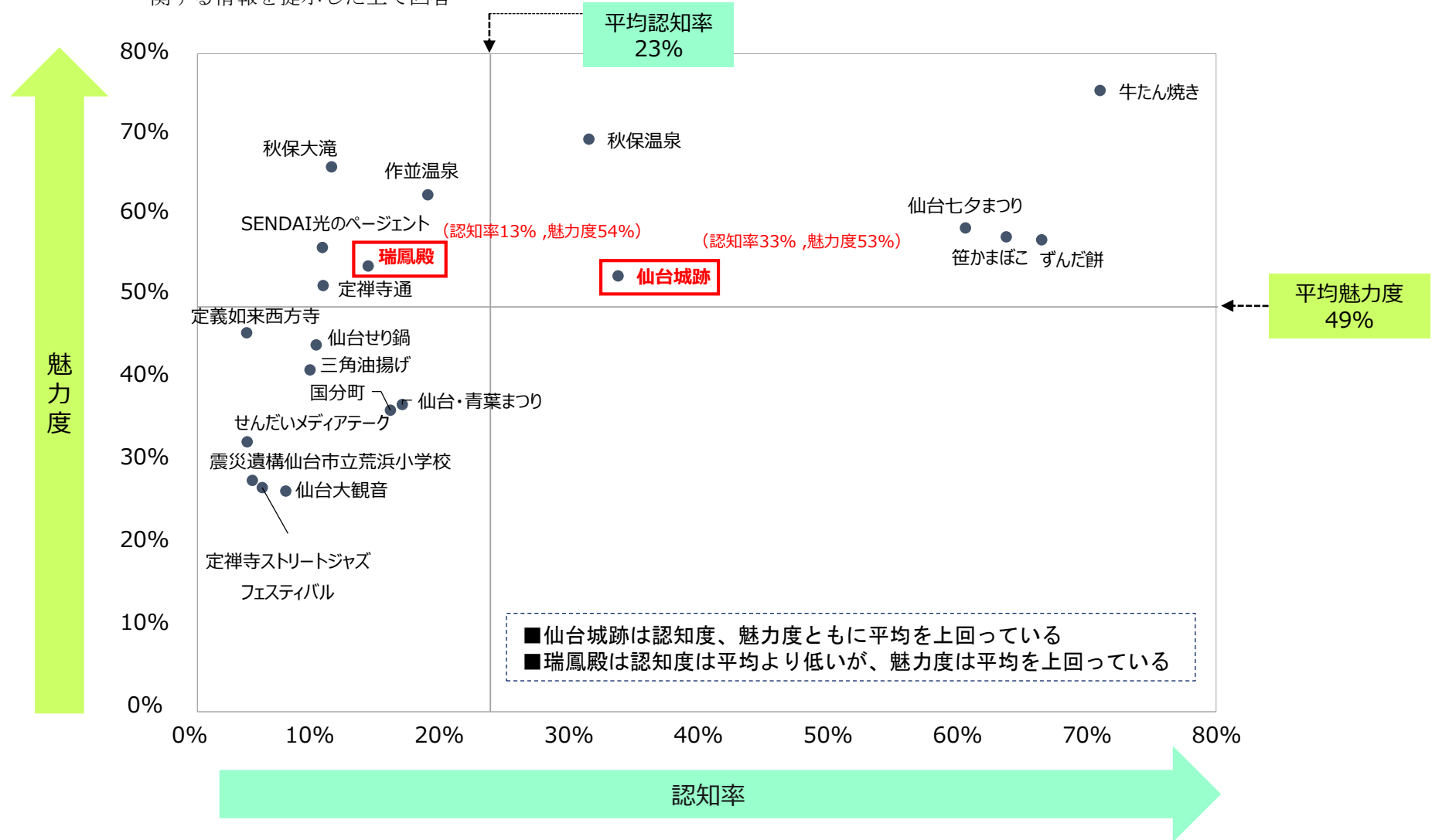


■ 訪れる頻度が高いほど「飲食に関すること」の期待度が高い  
■ 週1回程度訪れる人の「イベント」「情報発信」「移動手段」の期待度は比較的低い

(イ) 市外の方から見た青葉山エリア

仙台の観光地・観光資源の「認知率」と「魅力度」

- ・ 認知率：観光地・観光資源について「知っている」とされた割合
- ・ 魅力度：観光地・観光資源について「とても魅力を感じる」「やや魅力を感じる」とされた割合。観光地・観光資源に関する情報を提示した上で回答



調査対象：8,583名（北海道・東北（仙台市除く）・北関東・首都圏・中部・関西の20代～70代）

## 【コラム】青葉山エリアで活動している団体の声

エリアで活動をしている市民活動団体や事業者、学生などの方々にお話を伺いました

### 西公園プレーパークの会

#### Q. 活動内容、エリアの魅力

毎週月・水曜日と毎月第2土・日曜日に西公園で自然を生かした子どもの遊び場を運営しています。幼稚園や保育所、のびすくのほか、青葉山エリア内で活動するNPO法人や国際センター運営事業者、仙台観光国際協会なども連携し、活動を続けています。

西公園は、都心側から青葉山へ向かう緑の玄関口ともいえ、近くに広瀬川もあり、活動環境に恵まれています。

#### Q. エリアの課題、期待すること

西公園の北側と南側は歩道橋での行き来となり、定禅寺通など都心との歩行や自転車による往来が課題と感じています。

エレベーターの設置などの環境整備のほか、都心と青葉山エリア相互に人々を引き寄せる仕組みが必要だと思えます。

#### Q. エリアにおける今後の活動の展開

西公園は、青葉山エリアと都心の結節点として、人々が集う場所を目指したいです。ここに行けば誰かがいて、自然と遊べるというような親子が集える場となるよう、活動を続けたいです。



写真提供：西公園プレーパークの会

### 「奥州・仙台おもてなし集団 伊達武将隊」 運営事業者（株式会社ハートアンドブレン）

#### Q. 活動内容

伊達武将隊は、伊達政宗公を中心に、県内外のイベント等に多数出演し、仙台の歴史と魅力をPRしています。

青葉山エリアでの活動としては、青葉城本丸会館さんや仙台市博物館、NPO法人仙台城ガイドボランティア会の皆さんなどと連携し、仙台城跡で土日を中心に観光客のおもてなし活動を行っています。

また、パフォーマンス集団白Aさんとも、新たな企画を予定しています。

#### Q. エリアに期待すること

市民の誰もが「観光といえば青葉山」と言えるエリアになるといいですね。

MICE参加者や音楽ホールに訪れた方々がエリアを巡りたくなるような魅力や仕組みづくりが必要です。

#### Q. エリアにおける今後の活動の展開

仙臺緑彩館の運営事業者とも新たに連携し、エリアの玄関口となる青葉山公園と仙台城跡両方で、仙台ならではのコンテンツを提供していきたいです。

また、青葉山公園のライトアップなどナイトコンテンツの充実についても、関係者の皆さんと検討したいです。



写真提供：(株)ハートアンドブレン